

あっかざ家新聞



本多
紗智



前田
美沙



片山
素晴



篠田
大樹

Vol. 90

2020年10月22日

編集者：前田 美沙

素晴らしい暮らし

朝夕はずいぶん寒くなつてきました。冷たい風でシャキッとしますね。

今月で天龍農林業公社に着任しました。サニーレタス・ズッキー・パプリカと畑づくり・植付・収穫・出荷・畑の管理と一緒に経験させていただきました。最近通は、天龍村に来るまでの経験を活かし、ファックスのペーパーレス化や、荷受け・出荷管理、郵便物宛名ラベルの作成など事務作業の安全運行を目的としたシステム（ルール）づくりをしています。また、事務所に居る時間も長くなり、事務所に来られるお客様とお話をしたり、販路拡大の話が耳に入ったりと農作業とは別に着任後、農作業に従事し激減した体重も、事務をするようになり2キロ戻し62キロになりました。この冬の間にもう少し体重を増やし来期の活動に備えようと思ひます。農業を中心には、活動範囲を広げる予定です。ご迷惑をお掛けするかもしれませんのがよろしくお願ひいたします。

(記 片山素晴)

詳細の確認とご支援は以下のQRコードからお願いいたします。



朝から活動していざなすは八月後半から破棄しないといけないものが大量に出てしましましたが、肥料の大量投入と殺虫剤（農薬）の散布で九月からは持ち直して、色の綺麗な物が鈴なり状態に回復しました。

一日あたりの成長量は真夏に比べ落ちてますが順調に出荷出来ています。十月に入つてからは飯田市のツアード収穫体験に来てくれたり、小学生が社会の授業で見学に来てくれたりと微力ながら地域の役に立てて嬉しいです。

また、ていざなすを乾燥して保存でかかるようにしてもう一度、乾燥ていざなすを使った商品開発もしてみたいと思っています。



九月から支援を募集している、お茶畠の土砂崩れ復旧と歩道の整備、ツリーハウスの製作のクラウドファンディングは五十人以上の方々から三十万円を超えるご支援をいただいています。そのほとんどは村外からの支援で村民の皆様だけでなく、多くの皆様に支えられています。ご支援くださった皆様のお気持ちに応えるためにも責任持ってプロジェクトを進めていきたいと思います。また、歩道やツリーハウスは天龍村産の間伐材の利用にて、村民の皆様にも製作に参加してもらいたいながら進めたいと考えていますので今後の進捗にもご注目ください。

九月からの活動 (文・篠田 大樹)

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉通り、9月のお彼岸を過ぎ辺りからあつという間に村内が秋の風景になりました。

10月4日に下條村のおおぐて湖で野外音楽祭があり、そこで中井侍のお茶を使った抹茶ラテなどドリンクの出店をして参りました。

茶葉そのまま売るのではなく飲み物として販売する形での出店は初めてだったので、20杯くらい売れたら上出来かないと考えていたのですが予想を超える盛況ぶりでありがたい事にほぼ完売となりました。

「お茶がとても美味しい」という感想を頂いたり、甘いものが苦手な男性や渋い味のが苦手な小さな子も美味しそうに飲んでくれたのがとても嬉しかったです。

今回出店したラテには中井侍のお茶を石臼で挽いたものを使用しています。今まで、せっかく身体によくて安全なお茶なのに出がらしを捨ててしまふのがもったいないな」と思っていたのでこの飲み方は茶葉を丸ごと味わえて少し得した気分になります。急須で飲むお茶とはまた違った美味しいと楽しみ方を知りました。

密にならない形で村民の皆さんにも飲んで頂ける機会を作れたらいいなと考えています。



ここ最近は、写真広報「天龍百景」夏号の編集に追われていました。諸事情により村内を万遍なく回ることができなかつたのですが、お祭りなどは少し昨年のものも使つたりして、なんとか編集が終わりました。すぐに秋号の撮影編集に取り掛かりますが、一番短く美しい秋の天龍村を切り取るのが楽しみです。

九月下旬には、南信州最北端からのお客様と、向方地区の散策や紹介を行いました。短い時間でしたが、地元の方々に多大なるご協力をいただき、とても濃い時間を過ごすことが出来たと思います。共同でオンラインイベントも計画しているので、地区の暮らしや文化に興味を持つてくれる人を増やすよい機会になればと思います。

協力隊の任期後について、考えることが本当に色々あります、人間の気持ちというのは揺れ動くもので、ある程度考えて決まったことも、しばらくするとまた変わつたりで、正直なところ明確な答えは出ていません。それでも「地域おこし協力隊」という立場にいる間は、自分のことと並行して、地域がちょっと楽しくなるようなこともやつていきたいと思います。

それと最近は、人は一人で生きているのではないということを肌で実感することがとても増えました。これは都会に住んでいた時には考えもしないことでした。日々、人生勉強といったところです。